



ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお届け。最近定着しつつあるホール短縮プレーについて。

## 欧米で導入された12ホールプレー。

日本のポピュラーなゴルフ場では、混雑やスロープレーなど……1ラウンド5時間ほどかかることも少なくありません。郊外のゴルフ場まで出かけ5時間かけラウンドして帰宅すると、1日仕事ですよね(定年退職をされて「サンデー毎日」の方やバケーション中の方ならばゴルフに1日使えますが……)。この時間の長さが、世の中のラウンド数減少の理由の1つです。その結果として、ゴルフアールは絶滅危惧種と比喩されたりします。

すると、そもそも「1ラウンドが18ホールである必要があるのか?」という視点に立ち返ります。確かに、一般的には1ラウンド18ホールが基準ですし、競技会もそのように実施されます。しかし、「セントアンドリュース」のオリジナルコースは、昔は18ホールではなく、22ホールで設計され、1764年に4ホール減らし18ホールとなりました。また、資料によると、R&Aが18ホールを明記したのは1897年のルールブックで、1860年に行われた第1回の全英オープンでは12ホールで行われていたのです。世界には、土地の確保や開発の問題で9ホールのゴルフ場は多く存在します。ティー

グラウンドを使い分けることで18ホールにするのです。スコットランドの「シスキングルフアランド テニスクラブ」や2010年に完成したカナダのトロントにある全長251ヤードの「デリアールゴルフクラブ」は、12ホールしかありませんが、かなり人気が高いそうです。そこで、世界のゴルフ場デベロッパーたちは、宅地のデベロッパーとタッグを組んで、6ホールや、12ホール、14ホールのゴルフ場を隣接するプラ

Vol.34 プレースタイル

ンを立て、コースに顧客を集めることに成功しています。

## 1ラウンドが2時間45分で終了。

前述したトロントのゴルフ場における平均ラウンド時間は、2時間45分。当然ハーフブレイクはありませんが、毎日240〜260組ほどのゴルファーたちがラウンドするそうです。フランスの郊外にある7ホールのゴルフ場は、仕事帰りやビギナーの方に好評を博しています。往復の時間を入れても約4時間でラウンドできれば、ほぼ半日です。帰ってからも十分、他のことができる余裕があります。R&Aのリサーチによると、ゴルフアールの多くは最大3時間のラウンドが最適と考

## 海外のコースで定着しつつあるホール短縮形式。



要時間でホール数を決めるのもよいアイデアだと言えますよね。

コースレーティングの中心的役割を持つUSGAは、12ホールのゴルフ場のレーティングに本格的に取り組むようです。日本の場合は「せっかくゴルフ場まで来たのだから18ホール回らないと」という感覚が先にあるかもしれませんが、たとえば、サラリーマンの方は日が長い時期に社前に6ホール、シニア世代の方は散歩がてら孫と一緒に7ホール、そして風呂に入ってから帰ってくるなど……、新たな楽しみ方ができるようになるかもしれません。そうすれば、今よりもっと多くの人々がゴルフのラウンドの楽しさを体験できるようになる可能性がますます高くなります。



ゴルフビジネスのプロフェッショナル 神野方仁 (じんの・みちひと)

1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社代表取締役社長。国内外のさまざまなスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary; www.tpi-j.co.jp/ceo\_blog/

イラスト/ソリマチアキラ